

山火事は温暖化のせいではない

杉山 大志 (すぎやま たいし) 一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

要旨 メディアでは、山火事が地球温暖化のせいできているという報道がよく聞かれるようになった。だが近年になって特に山火事が多くなった訳では無い。アメリカを例にとると、19世紀末以降、人間が自然に介入し、山火事が起きないようにしたことで、山火事の件数はかつてに比べて激減した(図1)。近年の山火事の原因は森林管理の失敗である。地球温暖化との関係ははっきりしていない。

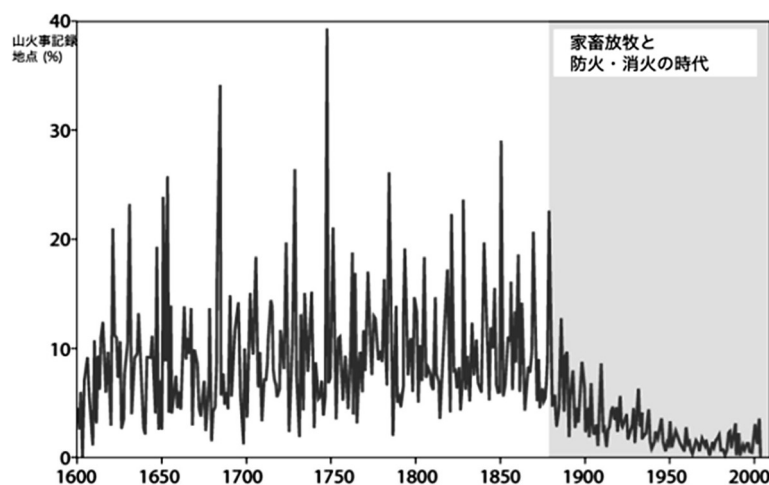


図1 北アメリカにおける火災の発生。北アメリカ西部800地点以上における火災発生の統合記録¹。

山火事は自然の一部

山火事についてまず理解すべきことは、それが自然の一部だということだ。日本では秋になると葉が落ちて、春になると草木が芽吹く、というサイクルがある。これと同じように、乾燥した地域では、植物が育つと、山火事が起こり、その後でまた草木が芽吹く、というサイクルがある。

様々な草木が山火事後で芽吹く中で、筆者のお気に入りにはアミガサダケ(ポルチーニ)だ。フランス料理でソースに絡めて食べると絶品。料理研究家マイケル・ポーランの本によると、これが山火事後に大量に発生するため、山火事のニュースを聞くと車を飛ばして駆け付けるグルメが居るそうだ。

山火事のおかげで生息する生物が多いことから、米国のイエローストーン自然公園では、山火事を人が消すことは「不自然である」として止めてしまった。筆者も見に行ったが、本当に、焼け跡がそこかしこにある。知らない人は痛々しく思うようだが、これが自然の本来の姿なのだ²。

¹ ジュディス・カリー (2019)、自然災害と闘う：復興、回復力、準備 <http://ieei.or.jp/wp-content/uploads/2019/10/Curry-Japanese.pdf>

² 拙稿、「山火事が保全するイエローストーンの大自然」 https://www.canon-igs.org/column/energy/20180905_5176.html